

歴史書・人文書・社会科学書 **ご担当者 様**

有志舎の新刊です。2026 年 10 月下旬刊行

「一九六〇年代」の決算

— 青年学生たちの運動と思想 —

河西英通 著

A5判・ハードカバー・360ページ 本体価格 8,400円

新しい視点から蘇る一九六〇年代の学生運動史。

あの激しかった大学闘争の時代に、お互いの不協和音さえ包み込んで〈前を向いて歩く〉ことを模索した若者たちの姿と思想・運動を描く。

歴史のなかから明日の社会運動の可能性を拓いていく一冊。

(目次)

序 章 「一九六〇年代」とは何だったのか

第一章 安保闘争と全学連

第二章 民青同盟の変容

第三章 全学連—主流派と反主流派—

第四章 安保闘争の記憶と回想

第五章 安保全学連から平民学連へ

第六章 全学連再建

第七章 ベトナム反戦・日韓闘争・羽田闘争

第八章 「戦闘的民主的全学連」論

第九章 転回点としての六九—七〇年

第一〇章 青年学生運動と「新日和見主義」

第十一章 「新日和見主義事件」とは何だったのか

終 章 「一九六〇年代」の決算

〈著者紹介〉河西英通（かわにし ひでみち）：1953 年生まれ、広島大学名誉教授。歴史学専攻。

～版元から～ 一九六〇年代において、若者たちの運動はいかなる意味を持っていたのでしょうか。従来の新左翼・全共闘を中心とする歴史像の超克をめざしながら、単純に共産党・民主青年同盟系の運動を対置させるのではなく、民青系を中心にしながら、敵対・競合ではなく接近・結合していた回路を探り、〈長い一九六〇年代〉の青年学生運動史を再描写します。膨大な一次資料と対峙し、六〇年前後の民青革新運動から七〇年代初めの新日和見主義事件までを遠望して、その運動像と可能性を検証。〈分裂を克服〉し〈真の複数主義〉に立ち、不協和音さえ包み込み〈前を向いて歩く〉ことを模索した若者たちの姿に明日を見出し出ていきます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階

(有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	「一九六〇年代」の決算 — 青年学生たちの運動と思想 — 河西英通 著 A5 判・ハードカバー、360 ページ 本体価格 8,400 円	日本史（現代） 社会運動
	ご担当	新刊 ISBN 978-4-908672-93-4 C3021	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様		

ご注文は (株) JRC へ

FAX：03-3294-2177

電話：03-5283-2230

返品条件付注文です。